



URL <https://kanagawanet.org/>

新型コロナウイルス対策 自粛による介護現場への影響

介護保険アクションチーム座長 山本とも子(厚木市民自治をめぐす会)



世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、これまでの生活を一変させました。感染のリスクが高いとされる高齢者本人はもとより家族も不安を増大させ、入居施設から一時的帰宅したり、デイサービスや生活援助サービスを抑えるなどしました。こうしたことから、特に高齢者の生活について、十分な支援が出来ないとの声を受けて、神奈川ネットでは状況を把握するため、県内の介護事業所に緊急のアンケートを実施しました。

アルコール消毒液・手袋は入手困難となり苦労したとの声も寄せられました。その後、県や市町からも衛生用品は届くようになりました。国や地方自治体からは沢山のメールが届きました。ありがたい膨大な量に、日々の仕事の中で十分に必要情報を選択することは困難であったといえます。

また、学校が休校となり子どもがいるヘルパーが休むことや、感染を恐れた家族が仕事を休むように求めるなど、元々不足しがちなヘルパーの確保がさらに難しくなり、シフトを組むことが困難となった現場もあります。65歳以上の人が多く働いている訪問介護では、自らが感染のリスクを負ってまで働くことは出来ないとの声も聞かれました。家族が働く職場で感染者が出たからと、ワーカーが2週間自主的に休むなど、働く側にも様々な影響があったことが分かりました。

次に備えて

見えてきた課題

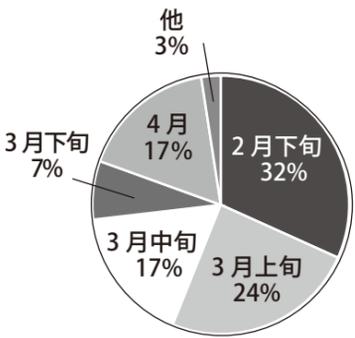
アンケートの結果から、事業への影響が出始めたのは緊急事態宣言が出る前の2月下旬〜3月の時期に多く、手探りでテレビや新聞から多く情報を得て対応をしてきました。一時的にでもマスクやア

第2波、第3波が来たときに、医療とともに介護事業者・利用者を感染から守る対策が求められます。衛生用品や人材の確保、医療との連携など情報の提供や、地域でのコーディネート力を高めて地域福祉が十分に機能する仕組みが必要とされています。

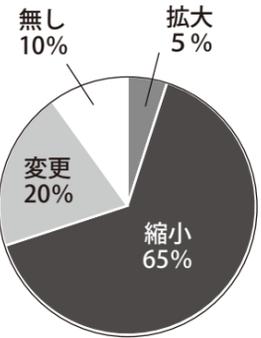
介護現場への影響調査

神奈川ネット調査

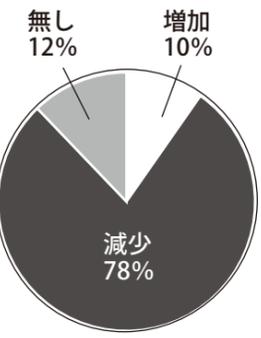
影響が出た時期



事業の拡大・縮小



利用件数の変化



学校の再開に向けて

視点



共同代表 佐々木 ゆみこ (ネット宮前/県議)

3月に突然、学校の休校要請があり、多くの子どもたちが登校することが出来なくなりました。卒業式や修了式の開催も危ぶまれましたが、学校の工夫により縮小されたながらも開催され、胸をなで下ろした人も少なくないと思えます。しかし、その後も休校が続く入学期や始業式の後も自宅で過ごすことになり、子どもへの影響は大きなものとなっています。

県内では、6月1日から学校が再開した市町村がほとんどです。しかし、分散登校や短縮授業が続いています。中学・高校では部活や大会が中止となり、目標を失ってしまった生徒も多くいるなかで、子どもたちの精神面への支援は重要課題です。また授業数確保のため、学校行事が縮小されるなか、行事による心の成長を懸念する現場の先生の声は切実なものとなっています。

同時にオンライン授業をすすめる環境整備も大きな課題となっています。家庭でのインターネット環境やパソコン、スマートフォン所有の差などにより、授業再開時に学力格差が生まれている懸念や、授業